



現場から（最近のニュースから）

大切な学び



イギリスのトップレベルの大学であるケンブリッジ大学には 800 年という長い歴史のなかで育まれた「天才」を生み出すしくみがあるということです。その大学の世界最高峰の学びのシステムを、体験したエピソードなどとともに紹介している、ケンブリッジ大学教授・飯田史也さんの著書『あなたの一生を支える 世界最高峰の学び』（日経 BP）について紹介している記事がありました。その中に、時間があるのに学べなかったり、たとえ学んでも、深い学びに結びつかなかったり、たくさんの障害にぶつかることについて書かれていました。学生たちには、「全速力」で学ぶのを妨げる4つの理由（壁）があるということです。

(1) 全速力で走る必要がないと思っている壁

好きなことを自分のペースで学ぶのが本来の学びで、わざわざつらい思いをしてまで全速力で学ぶ意味がわからない。

(2) 全速力で走りたくない壁

人は本能的に楽な方を選びがちです。やるべきことがわかっていても、ついダラダラしたり、学びを後回しにしてしまう。

(3) 全速力で走りたいけれど、走り方がわからない壁

がんばっているつもりでも、思うように進まない。速く、遠くまで学び続ける方法がわからない。

(4) 全速力で走りたいのに、走れない壁

精神的な問題や健康上の理由で、長く集中できなかつたり、まわりと同じペースで学ぶのが難しい。これらの壁が、同時に立ちちはだかっていることが多いということです。

大切なのは、この4つの壁を「存在しないもの」として無視するのではなく、きちんと向き合うことがスタートラインがなのだとされています。そして、何よりもまず、自分にとって本当に大切な学びは何かを考えてみるように言われます。深く、長く、自分の人生そのものを形づくる「本質的な学び」をしているのかということです。

豊富な知識を持つ「モノ知り」は、単に表面的なものであり、質問に対する答えが、ただの情報の羅列や無難な説明で終わってしまいます。それは「自分の言葉」ではなく、「借り物の知識」を持っているだけだからだと言われます。それとは違い、本質的な学びとは、知識を自分の中に取り込み、自分の言葉で語れるようになることだということです。知識をただ覚えるのではなく、自分の興味や感情を重ね、時には驚きや感動を伴いながら、自分自身のものとして吸収していく過程が、本質的な学びだということです。学びを「他人ごと」ではなく「自分ごと」として引き受ける姿勢が、学びを本質的なものへと変えていくということです。そのように意味ある学びをしていくとき、全速力で走るようになるということです。（2月3日 FNN プライムオンライン<名門ケンブリッジ大学でも目にする全速力の学びを妨げる「4つの壁」と多くの人がつまづく自分への問いかけ>より）

壁があると思っているのですが、実はその壁が問題ではなく、自分にとって大切な「本質的な学び」が分かっていないということでしょう。これは、単に学問のことだけではありません。天才になるつもりではなくても、私たちもそれぞれ自分なりに学ぼうとしています。しかし、いろいろな理由でうまくいかないと、どこかであきらめているのではないのでしょうか。それは実は、それが自分の人生にほんとうに大切なことだと認めていないのが理由ではないのでしょうか。あなたの人生でなにがいちばん大切か、何が必要なのか、それが分かるなら、あきらめる必要はありません。そのことについて、いちどいっしょに見てみませんか。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になる、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみ的人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってくださいましたことを感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」